

横浜港の視察見学会

横浜港のふ頭等の整備状況を学ぶ

2019/09/03

川崎の産業観光を支援する会 事務局 根岸雅明 記



横浜学会の記録

【概要】国土交通省関東地方整備局の京浜港湾事務所様より横浜港を学ぶ機会をいただきました。

見学に先立、ご説明資料をいただきました。この資料をもとにパワーポイントで現地のふ頭などを照合しながらの案内でしたのでとても分かりやすく、理解を深めることができました。ふ頭でのコンテナの積み荷の多さに驚き、ガントリークレーンの大きさ、またふ頭の岸壁の構造もそれぞれの役割や機能に応じて設計されているお話もお聞きできました。岸壁の構造は同じ岸壁でも一律でないことも知りました。

港湾機能の充実はとても大切なことだと現地を見ることで改めて学びました。

国土交通省の京浜港湾事務所の伊藤様と谷川様のご案内、ご説明には感謝申し上げます。またマイクロバス、船の操縦の関係者の皆様にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。そして市民の皆様方のご参加ありがとうございました。

以下はその記録です。

【日付】令和元年9月3日（火）14:00～16:00

【目的】横浜港を見学して横浜港の現状を知り、港の基盤整備状況やその役割等を学ぶ。

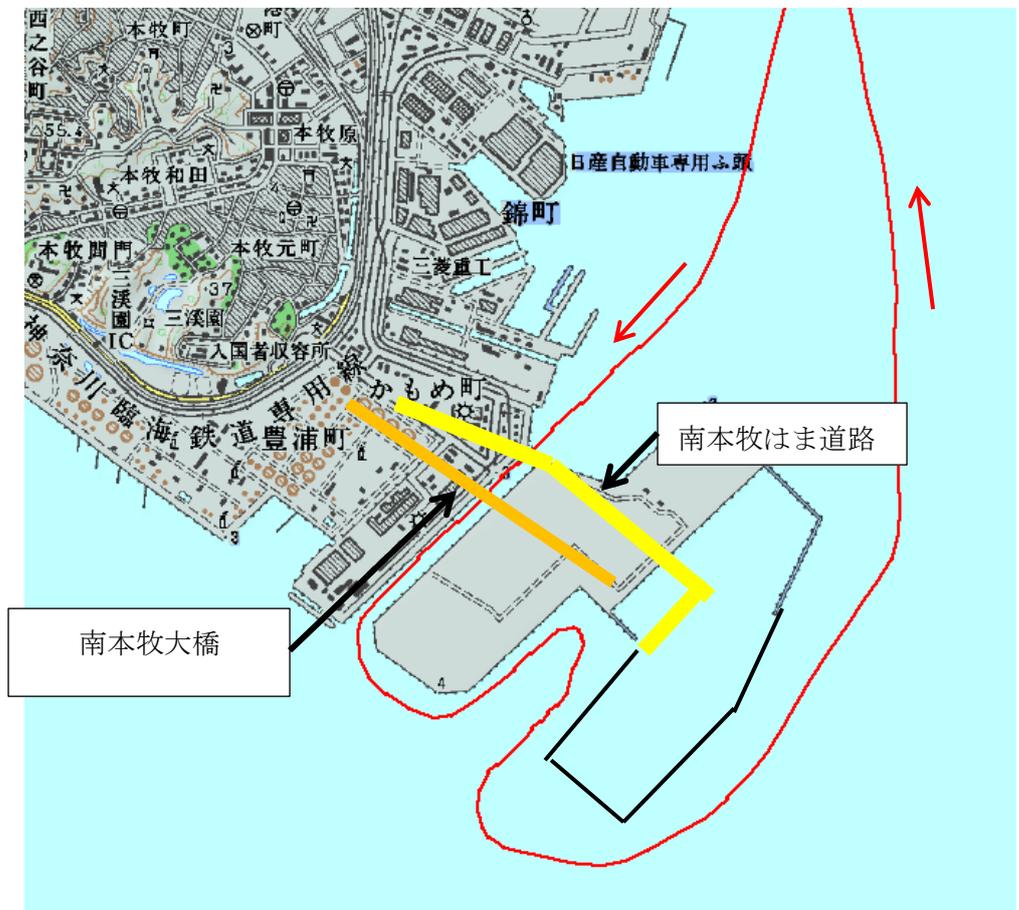
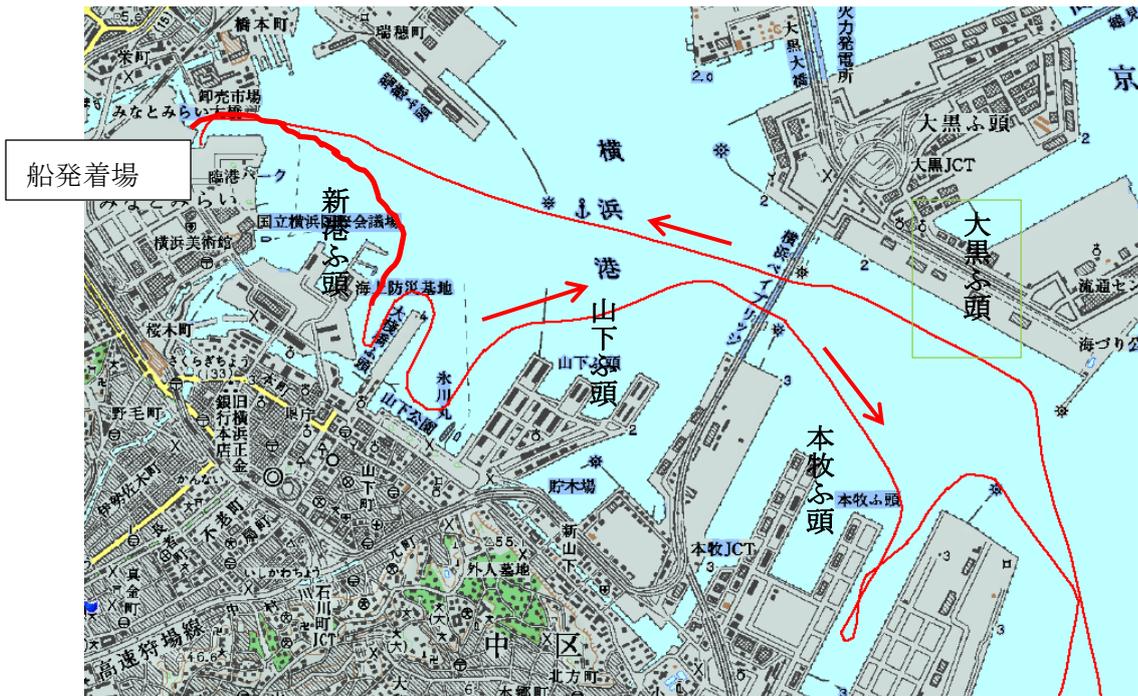
【参加者数】16人

【その他】連絡先 国土交通省京浜港湾事務所総務部 谷川様 045-2321-8798

【コース概要】横浜駅東口さとう時計台下集合 13:20…徒歩 15分…京浜港湾事務所 14:00
～船着き場～新港ふ頭～大さん橋～山下ふ頭～ベイブリッジ～本牧ふ頭～
航路ルート南本牧ふ頭～大黒ふ頭～瑞穂ふ頭～船着き場→15:50 横浜駅東
口

【航路ルート図】





【感想】 今回の横浜港の視察見学会では、応募開始と同時に締め切り人数に達しました。締め切り後も応募があり、皆様の関心の高さに驚きました。

このような横浜港の港湾施設をまじかに見学できるような機会はまずないので、皆様の関心が深かったものと思われまます。

小雨が降る中、船着場から出て海上保安庁エリアの新港ふ頭には新しく客船ターミナルの施設ができるとの説明がありました。

横浜港の歴史を交え 1989 年の横浜博覧会から 30 年経ち、この地区の目覚ましい発展に驚かされました。

大栈橋、ベイブリッジ、山下ふ頭、さらには南本牧ふ頭まで拡大し、大黒ふ頭も機能強化のため整備中とのとこ。

国際展示場の拡大もされているとのこと。ベイブリッジは 2 階建ての 2 層構造となっていて上部が高速道路で下部が一般国道で本牧ふ頭と大黒ふ頭を結ぶ物流の役割も担っているようです。

本牧ふ頭ではこれでもかというほどのコンテナが積み込まれていました。7,000 個 (TEU 換算) と話されていましたが、多品種の積み荷とその量、より高率化、高速化を図るためのコストダウンなのでしょうね。私たちか享受している豊富な品物、便利さ、速さ、安さ、安全性も含めてこのような港湾施設の恩恵を受けているのだとも思いました。



新港ふ頭の客船ターミナル整備中

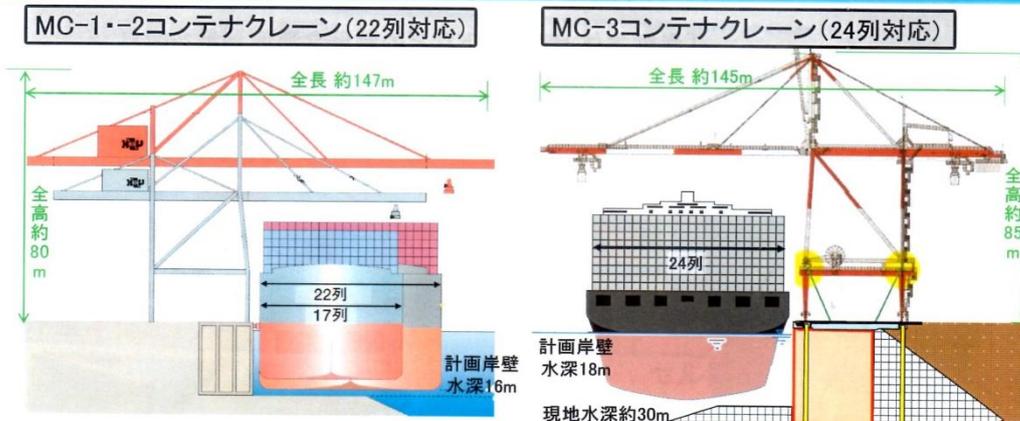


驚くほどの積み荷量ですね。ネットで調べましたらコンテナの数量を示す単位は TEU (トエンティフィート・エクイバレント・ユニット) 20 フィートで換算したコンテナの個数だそうです。最大は 18,000 個も積めるようです。驚きでした。

南本牧ふ頭の拡大に伴いふ頭間のアクセスのために南本牧大橋やはま道路が建設（一般公募より命名されたとのこと）されたとのこと。高速道路に結ばれ首都圏へのアクセスが向上されたとのこと。

南本牧では日本最大のコンテナクレーンも見ることができました。大きさにびっくり。

南本牧コンテナターミナル -我が国第一位・第二位のガントリークレーン- 国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務



配布資料より抜粋





南本牧ふ頭のコンテナクレーン群



船内でパワーポイント交えて現地と照合しながらの説明でしたのでよく理解できた。



雨が降る中ベイブリッジの下をくぐる。



船内の様子



大黒ふ頭では自動車専用岸壁の強化ためさらなる整備中とのこと。三菱、スバル、ホンダの車がここから海外へ出荷される。日産とトヨタは本牧ふ頭の専用栈橋を設けているようです。またベイブリッジの下を通れない大型客船もこの大黒ふ頭に客船ターミナルとして整備されました。横浜港の整備している状況の施設をまじか見学させていただきました。ぜひまたこのような機会を作っていただければと思います。関係者の皆様方にはありがとうございました。